

あまぬまだより

<http://www.suginami-school.ed.jp/amanumashou/>



杉並区立天沼小学校



おらが学校、おらが天沼

副校長 一ツ柳 秀美

東北の高校球児を日本中が応援する中、こんなエピソードを知りました。

自己中心的でわがままだった高校球児の息子が、地震のために野球の練習どころか、チームメイトもそろわなくなってしまった現実を目の前にして、「自分にできることはなんだろう?」と悩んだ末、人のため地域のために働き、大きな声で挨拶を交わすようになり、顔つきまでもが優しく変わったというものです。予選は初戦で負けてしまいますが、相手チームと笑顔で握手し、「野球は一人ではできない。仲間がいて試合ができることに感謝したい。」とコメントしたこと。この後も復興計画に若者が積極的に関わり、「おらが町はおれ達で再生する。」との息吹が高まっているとのニュースに「がんばれ!」と応援するとともに、自分は何ができるのかと問う日々であります。

「おらが学校は自分達で創ろう!」との機運は本校もあります。6年生の児童が自分たちで「あいさつ実行委員会」を立ち上げました。『あさからしっかり、おはようございます』と手書きした横断幕を持ち、全校児童に声をかけました。元気な「おはようございます。」の挨拶がエントランスホールに飛び交いました。自分から挨拶をする子供が少ないとのアンケート結果を知り自分たちで改善しようと立ち上がったのです。2学期には、他学年にも呼び掛け新たな計画が進行中です。大変に頼もしく、大いに褒めて伸ばし伝統にしてほしいと願っています。

「あいさつのできる子」のイメージ像は「明るい笑顔で目を合わせ、いつでもどこでも、自分から先に適切な言葉を使って挨拶のできる子供」でしょうか。「おはよう。」と言うと「おはよう。」と返ってくる1年生の段階から、理想のイメージ像に近づく6年生の段階までの指導を計画的に学校全体で取り組んでいます。日本で生まれた赤ちゃんは、自然に日本語を話し始めるという「母国語教育」の考え方では、教育は環境次第ということになります。よいモデルのいる環境の中で適切な教育を受ける

ことで、規範意識も醸成されていきます。それを中学校の教員と共に理解して取り組んでいるのが「天沼の小中一貫教育」です。6年生までに積み上げた基礎基本の内容を中学校が知悉し、思春期の難しさも鑑みて、さらに積み上げられるように連携して課題解決していくとしています。

杉並区の教育課題指定校として昨年から、交流を進め、4つの分科会（学習規律、日本の伝統・文化理解教育、キャリア教育、道徳）に分かれての研究授業が6月29日に実施されました。キャリア教育分科会では、3年生が毎年取り組んでいる教会通りでのお店番体験の接客指導の授業でした。ゲストチューターに呼ばれたのは、天沼中の2年生24人です。自分もお店番体験を経験し、今回、職場体験するに当たり、マナー講習会を受講した知識も活かしての先生役でした。また、道徳分科会では、天沼小学校の教員が、中学1年生に授業を行いました。6年生でも事前授業をして本番に臨み、同じ教材に対しての反応が6年と中1とは異なることが分かり、新たな発見でした。義務教育9年間を修了した時に、「おらが町は・・・」との思いを培って地域に貢献できる若者を育成していきたいものです。

夏休みは、朝7時から校庭（雨天はアリーナ）で始まるラジオ体操からスタートです。すでに各学年ごとにゲストティーチャーをお招きし第1・第2・みんなの体操を勉強しました。学校が子供と保護者、地域の方々との出会いの場所になります。元気な挨拶がコミュニティの輪を作ります。本校が目指す地域立学校の理想の姿がそこにあります。

課題図書『クジラと海とぼく』（水口博也作）は、夏休みに母の実家で過ごすうちに海の世界にあこがれた少年が、その写真撮影や生態のおもしろさを研究し、やがて夢が実現できる日を迎えるという自伝です。この夏、将来を決める出会いが待っているかもしれません。東北の人たちにエールを送りながら節電カレンダーに取り組み、交通事故に気をつけて健康第一で過ごしましょう。

心身ともに充実した夏休みに

生活指導部

いよいよ、子どもたちが待っていた42日間の夏休みが始まります。

いろいろな体験や、普段できないことにチャレンジできるのも夏休みならでは。次の項目を参考にしながら子どもたちが充実した夏休みを過ごせるよう、ご家庭でもご配慮くださいますようお願いいたします。

1 きまりのある生活を

- ・早寝早起きなど、生活の「リズム」をくずさないように気をつける。
- ・自分で計画を立て、朝の涼しいうちに学習する。

2 夏休みだからこそできる経験を

- ・長期にわたる観察、実験、旅行記、読書、工作など創造性豊かなものに取り組む。
(図書館、区民センター、郷土資料館等の施設も活用できます。)
- ・地域の行事やボランティア活動に参加し、地域とのかかわりを学ぶよい機会にする。

3 家族の一員としての自覚を

- ・家庭の中で、気持ちのよいあいさつをする。
- ・家庭での仕事を分担し、手伝いをする。
- ・家族との触れ合いの場をもつ。

5、6年生の「あいさつ実行委員」が、天沼小のあいさつ運動を盛り上げています。
夏休み中、ご家庭でもあいさつの習慣化にご協力をお願いいたします。

4 健康な体作りを

- ・朝のラジオ体操(日曜を除く7月21日～27日の午前7時～7時30分、雨天時はアリーナ)や水泳教室に積極的に参加し、体力づくりをする。

5 安全な生活を

★交通安全

- ・道の右側を歩き、飛び出しや信号無視などをしない。
- ・自転車は点検し、安全な乗り方をする。
(校庭開放に自転車で来ることは禁止になっています。)

児童向には「夏休みの生活」を記ります。併せてごらんいただき、楽しく充実した、そしてけがや病気のない夏休みをお過ごしください。

★誘拐、痴漢等の被害と非行の防止

- ・外出する時は、誰と、どこへ、何をしに、何時に帰るかを確認し、防犯フナーを携帯する。
- ・危険を感じたら大声を出して助けを求める、ピーポ110番表示の家や店などに逃げ込む。
(万が一、不審者等被害にあったときは直ぐに110番通報をし、学校にも連絡してください。)
- ・必要のないお金は持たない。
- ・お小遣いで買ったものは親に報告する。
- ・子どもだけで夜遅くからの外出はしない。
- ・子どもだけでゲームセンターや繁華街に行かない。
- ・インターネットや携帯電話等情報機器の悪用による誹謗・中傷や詐欺行為などのハイテク犯罪の防止について家庭で話し合う機会をもつ。

★水や火を使った遊び

- ・花火は大人の指導のもとです。
- ・プール、川などの遊びは、約束や決まりを必ず守る。

～大地震に備えて～ ご家庭で話し合う機会を

3月11日の東北地方太平洋沖地震発生後、余震が続いている。本校では、毎月の避難訓練と安全指導のほか、夏休み前には副教材「地震と安全」等を使用し地震時の対応について児童に指導を行いますが、夏休み中は児童が自宅で一人で過ごしたり、子供同士で外出したりする機会も多くなりますので、ご家庭でもいろいろなケースを想定した避難の場所や方法について十分話し合う時間をもち、子どもが安心・安全な毎日を過ごせるよう学校・家庭が連携して取り組んでいきましょう。